

第34回「大阪の消防大賞」受賞者

消防団員の部

所属	受賞者	功 績 概 要
東大阪市 消防団	二階堂倫久 団員	平成30年10月、集会所で発生した火災で、屋内に取り残され、猛火と激しい黒煙の中、窓から助けを求めている男性1名をフェンス越しに引っ張り出した。防火衣も装着していないなか、迅速かつ的確な判断と行動により、消防隊が到着する前に救出した。さらに要救助者の無事を確認した後は、自らの分団に合流し消火活動に従事した。
枚方市 消防団	山本正夫 団長 他 464人	平成30年6月、大阪北部地震発生後にいち早く市役所危機管理室に非常警戒本部を設置。震災直後の地域住民の避難誘導、避難所運営に注力し、混乱と大きな不安を抱えた避難者へ「大丈夫ですか」「何が必要ですか」など心の通った励ましの声掛けで安心感を与えた。このような活動を行ってきたことで、消防団に対しての信頼を高めました。
島本町 消防団	藤田隆雄 団長 他 133人	平成30年6月に発生した大阪府北部を震源とする地震、9月に発生した台風21号と続いた大きな自然災害の際、積極的に警戒出動して被害状況を把握。地域の災害活動にあたり、消防本部との連携を密にして、効率的な消防活動を行った。このように消防団員の活動は近年の多岐に渡る災害や事故から住民の生命・身体・財産を守るため、常備消防と一体となって地域防災力の向上に寄与しているところです。

消防職員の部

所属	受賞者	功 績 概 要
高槻市 消防本部	榎田駐留隊 (20人)	平成30年9月、台風21号は、高槻市に大きな被害をおよぼし、北部に位置する北消防署管轄区域内の榎田地域においては、市街地と榎田地域を結ぶ唯一の道路である府道枚方亀岡線が、強風による倒木で車両の通行が不能な状態になり、倒木により電柱がなぎ倒され送電線が切断し、榎田地域への電源供給が完全に遮断され、これにより水源地のポンプが停止し、最重要ライフラインである水の供給についても停止する事態となった。 倒木等で活動は困難であったが、一致団結し、倒木撤去作業を継続、孤立地区の住民の安否確認及び飲料水等を手渡すため、徒歩にて孤立地区へ赴き各家庭に配給した結果、住民に死者、行方不明者、負傷者を一人も出すことなく任務を終了した。
泉州南 消防本部	泉南消防署 (7人)	平成30年1月、事業所で心肺停止となった男性従業員を適切かつ迅速な処置で無事救命した。 通信指令室は、同僚従業員に胸骨圧迫を冷静に指示したほか、救急隊、ポンプ車隊による応急処置が実施され、救命の連鎖につながった結果、男性従業員は、救急車内で心拍が再開し、後遺症もなく社会復帰できた。
吹田市 消防本部	(3人)	平成30年5月、阪急吹田駅で心肺停止状態となった男性を一般市民が発見し、研修を終え帰宅途上に偶然通りかかった当該職員3名が一般市民から引継ぎ、冷静な状況判断と迅速な連携活動で救命処置を適切に行い、救急隊到着までに男性の心拍・呼吸が再開、意識も回復し、社会復帰につなげた。
堺市 消防局	(23人)	平成30年2月、交差点内で発生した車両2台の関係する衝突事故で大破した乗用車の運転席に男性が挟まれ、心肺停止状態に。引火による2次被害の危険もあるなか、出動隊員は車体の一部を切断し、到着後わずか15分で男性を安全かつ迅速に救出した。救出された男性は、心肺停止状態であったが、事故発生後32日後に後遺症もなく社会復帰を果たした。